

血管内治療部

1. スタッフ（平成23年4月1日現在）

部長（教授）	渡辺 英寿（脳神経外科）
医員（准教授）	難波 克成
	齊藤 力
（講師）	中田 学（放射線科講師）

総数

77例

全身分野では総数424件の検査・治療を行っており、中でも肝動脈塞栓術が277件と最も多い。

心臓血管分野では今後のステント留置術の増加が予想される。

2. 血管内治療部の特徴

血管内治療部は平成17年4月に新設され、平成18年3月に、最新鋭の頭部専用血管撮影装置（Philips社製Alura）、および全身用血管撮影装置（Siemens社製Axiom）を備えた現在の新しい施設に移転した。脳神経分野、全身分野、心臓血管分野から構成されている。

脳神経分野では、脳、脊髄、頭頸部の血管病変全般を対象とし、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脳動脈閉塞性病変、脊髄血管奇形、頭頸部腫瘍、頭頸部血管奇形などの診断および治療を行っている。観血的手術を行うことなく、非侵襲的に治療を行う画期的な先端医療を担っている。

全身分野では、放射線科中田講師が中心となって、主に腹部臓器の血管撮影、CTガイド下生検および塞栓術、動注療法など、幅広い診断と治療を行っている。

心臓血管分野は平成22年11月よりが新設され、胸腹部大動脈の動脈瘤、閉塞性病変に対してステント留置術を行っている。

平成19年11月には、血管内超音波装置（IVUS）が導入され、血管形成術の診断精度が向上した。

平成22年6月に前任、根本繁教授が退職し、平成22年10月に難波克成医師が准教授に昇任した。

専門医

日本脳神経血管内治療学会専門医	難波 克成
日本脳神経外科学会専門医	渡辺 英寿
	難波 克成

3. 実績・クリニカルインディケーター

脳神経分野

脳血管撮影件数 288件

手術症例病名別件数

脳動脈瘤	26例
動静脈瘻・脳動静脈奇形	5例
血管形成術	30例
脳腫瘍	9例
脊髄血管奇形塞栓	4例
頭頸部顔面血管塞栓	3例

4. 事業計画・来年の目標等

研究活動

平成22年度11月、「ブタを用いた脳血管内治療トレーニングプログラムの開発」において科学研究費補助金を受託し、先端医療技術開発センターにて動物実験を行う予定である。

臨床活動

脳神経分野では2010年度は2009年度と比較して、検査・治療数において漸減した。これは、2010年4月に第9回日本頸部脳血管治療学会を主催したため予定症例を制限したことと、根本繁教授の退職に伴うスタッフ変更による影響と考えられる。2011年度はスタッフが少ないながらも新体制への移行が完了し、実績の回復を目標とする。2010年には脳梗塞急性期治療用デバイスが認可され、急性期脳梗塞に対する血管内治療が可能となった。今まで当部門で治療対象としていなかったこの分野への参加を計画している。また、頭頸部領域血管病変は各科が協力しての多面的治療が必要であり、積極的な連携を図りたい。

全身分野では2006年以降年を追うごとに症例数が増加しており、血管内治療の有用性が広く認識されている証であると考えられる。

心臓血管分野では2010年11月に開設され、今年度の活躍が期待される。